

飯田版「POT」紹介

○**消防本部名** 南信州広域連合飯田広域消防本部 1本部4消防署6分署
職員定数 217人 救急隊 10隊 救急救命士数 67名(兼務業務)

○**組織市町村** 1市3町10村 面積約 1,929km² 人口約 161,000人

○飯田版「POT」

- ・経緯
平成 26 年 7 月 平成 26 年度指導救命士養成研修で POT 受講。その内容に感銘を受けた救急救命士が自地域での開催を計画
平成 26 年度 南教授を招き自主研修会として 2 日間開催
平成 27 年度 南教授を招き自主研修会として 2 日間開催
受講者から OJT 開催の要望が多数あったため教育体制の整備に取り組む
指導者「ひと」、教育用機材「もの」、教育体制「しくみ」作り
指導者養成…FTP(ファシリテーターコース)2名受講
平成 28 年度 FTP 受講者(指導救命士)による試験開催
平成 29 年度 教育用機材整備「レサシアン シミュレータ」購入
OJT として隔月開催決定
第 1 回開催 12 月スタート(指導者：指導救命士 3 名)
- ・オリジナリティ 受講対象を救急隊員と救急救命士と分けて開催
受講後、記憶の定着を図る(エビングハウスと忘却曲線)ため受講者は症例ごと「復習ノート」を作成
- ・今後の展望 実救急事案での症例作成
総合シミュレーションへの発展等

救急救命士が行う特定行為が拡大(処置拡大二行為)された以降、CPA前の重度傷病者に対する教育プログラムを模索していた。救急救命士のみならず救急隊員のレベルアップも喫緊の課題であった。その中、POTに出合い、その内容に感銘を受け、CPAに陥らせないための救急救命処置、救急救命処置に至るまでのプロセス(観察力)が今後の救急業務に肝要であると考え、平成 29 年度 OJT(指導救命士が指導)として開催する運びとなった。

飯田版「POT」では、受講対象を救急隊員と救急救命士と分け、また受講後の記憶の定着(エビングハウスと忘却曲線)を図るため、受講者は「復習ノート」を作成するなどオリジナリティあるものにした。小さな 1 歩を踏み出したばかりではあるが、みんなで踏み出せたこの 1 歩はいずれ大きな成果になると信じ、地道に続けて行きます。

飯田版 POT の開催に至るまで、幾度となく足を運んでいただいた南教授には心から感謝申し上げます。